

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(1 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

書簡的エクリチュール——ヴァレリー研究の新たな展開にむけて

Epistolary Writing: For the Development of New Studies on Valéry

2. 研究代表者氏名

鳥山定嗣

TORIYAMA Teiji

3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月 (1 年度目)

4. 研究目的

ポール・ヴァレリー(1871-1945)についての研究はこれまで作品および『カイエ』に重点が置かれてきましたが、近年あいつぐ伝記や書簡の刊行によって、ヴァレリー研究は大きく様相を変えつつあります。本研究の目的は、そうした新たな研究動向にそって、青年期の友人(ジッドやルイスなど)との書簡、またヴァレリーの後半生を彩る女性たち(ポッジ、ヴォーチェ、ヴォワリエなど)との恋愛書簡を読むことにより、「テスト氏」や「純粹自我」の概念に代表される主知主義的かつ自己充足的な作家像とは異なるヴァレリーの姿、すなわち青年期から最晩年まで、同性／異性、友人／愛人の相違はあれ、「他者」を希求しつづけたヴァレリーの「自己」のあり方を問い直すことです。特定の他者との間に交わされる「書簡」は、不特定多数の読者に向けられる「作品」とも、孤独な精神の日記「カイエ」とも異なる独自のエクリチュールであり、その特質を探ることは、作者・書かれた物・読者という三項関係のもとで「書く行為」について再検討する意義もあると考えます。

The studies on Paul Valéry (1871-1945) which have focused on his Works and Notebooks (Cahiers) are now showing signs of significant change with a series of biographies and correspondences recently published. Considering this new trend in Valéry's studies, our research aims to show a Valéry, far from the stereotypical, intellectualist or self-sufficient image, as represented by his creature "Monsieur Teste" and the concept of "Moi pur (Pure Ego)". By reading Valéry's letters sent to friends of his youth (André Gide, Pierre Louÿs) and to lovers appearing in the second half of his life (Catherine Pozzi, Renée Vautier and Jeanne Loviton, alias

Jean Voilier), we will examine the “Self” of a man who cannot help writing to “Others”, friends or lovers, throughout his life. Epistolary writing, addressed to a specific person, differs from Works destined for the general public but also from private Cahiers, a kind of solitary mind’s Diary. The specificities of epistolary writing will thus lead us to a reexamination of “the act of writing” in terms of the triple relation between Writer, Text and Reader.

5. 本年度の研究実施状況

9月25日(水)、京都大学人文科学研究所において研究会を開催し、今井勉による報告「ヴァレリーと世紀末文芸誌」、および、ジッド・ルイス・ヴァレリーの『三声書簡』に関する検討を行った。12月21日(土)、同じく人文研において「愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」を読む」と題するシンポジウムを催し、全班員が報告を行い、35名の聴衆を得た。2月13日、今年度の研究結果を受けて鳥山と森本が今後の展開の可能性について検討を行った。

6. 研究成果の概要

最終報告書に記載

7. 本年度の研究実施内容

2019-09-25 ポール・ヴァレリーと『三声書簡』 ヴアレリーと世紀末文芸誌 発表者 今井勉
東北大学

2019-12-21 愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」を読む 抽斗にしまった手紙
——ロヴィラ夫人問題を考える 発表者 今井勉 東北大学

「カリンとポールの物語」あるいは《Ave atque Vale》 発表者 松田浩則 神戸大学

恋文を書くナルシス——「愛(アムール)」の女性単数形をめぐって 発表者 鳥山定嗣 名古屋大学

ヴァレリーと犯罪——カトリーヌ・ポッジとの往復書簡と1920年代の変貌 発表者 塚本昌則 東京大学

愛のエクリチュールと「不可能な文学」——マラルメ、恋愛書簡、「私の精神の回想録」 発表者 森本淳生

8. 共同研究会に関連した公表実績

森本淳生・鳥山定嗣編『愛のディスクール——ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』、水声社、2020年3月

9. 研究班員

所内

森本淳生

学内

学外

鳥山定嗣(名古屋大学)、松田浩則(神戸大学)、今井勉(東北大学)、塚本昌則(東京大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
学内	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学	5	7 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	3	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	11	14 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	6(5)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由	論文集を一般書として刊行したため		
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』(水声社、2020年)	1	抽斗にしまった手紙——ロヴィラ夫人問題を考える	今井勉
『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』(水声社、2020年)	1	「カリンとポールの物語」あるいは《Ave atque Vale》	松田浩則
『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』(水声社、2020年)	1	恋文を書くナルシス——「愛(アムール)」の女性単数形をめぐって	鳥山定嗣
『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』(水声社、2020年)	1	ヴァレリーと犯罪——カトリーヌ・ポッジとの往復書簡と1920年代の変貌	塚本昌則
『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』(水声社、2020年)	1	愛のエクリチュールと「不可能な文学」——マラルメ、恋愛書簡、「私の精神の回想録」	森本淳生

『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』(水声社、2020年)	1	ヴァレリー と女性たち	鳥山 定嗣
--	---	-------------	----------

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 次年度の経費

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

2020年3月に成果報告論文集『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』を水声社より刊行。

